能登地震
共同支援センター 通信
No.6〔3月23日〕能登半島地震 被災者共同支援センター
拡散希望
X @notosiensenta　〒925-0026 石川県羽咋市石野町ト 13-1
Mail: notosien@ymail.ne.jp　電話 0767-23-5107　Fax5108

藤野責任者 笹川集落（能登町）の住民と懇談

2次災害から命を守る対策を

相談が寄せられたＫ氏(右)の自宅裏のがけ崩れの現場で調査する藤野責任者(左)ら

地割れ現場を地元Ａさん(右)の案内で調査

「命をつなぐ」物資の支援に、ご協力を

共同支援センターの**藤野やすふみ**責任者は 22 日、住民の要請にこたえて能登町笹川集落を訪問。町(旧村)が整備した自宅裏の擁壁が崩れ、2 次災害への不安が募っている町民と懇談、「党国会議員団とも連携し政府に対策を求める」と述べました。

藤野責任者がコメント

22 日、石川県能登町の笹川地区へ。地元の方 3 人からお話をお聞きしました。Ｋさんは、元日午前中は家族で笹川の家にいましが、午後は野々市市にいて地震に遭いました。笹川の自宅に戻ってみると、家の裏山で土砂崩れが起き、一階のガラスが全部割れ、家屋は傾き、敷地は隆起するなど大きな被害が出ていました。「2 ヶ月はショックで何も考えられなかった。ようやく最近どうするか考えられるようになった」との言葉が胸に刺さりました。

「一番心配なのは余震や梅雨による二次被害」とＫさん。実際、私もそのお宅の裏に立ちましたが、家から２ｍも離れていない所に、低いながらも見上げる角度の裏山があり、土砂崩れで落ちた大きな岩がいくつもありました。怖いのはまだ落ちてきていない岩が、山肌に複数見えたこと。山を覆っていたコンクリート法面も 3 分の 1 ほど剥がれ落ち、かろうじてガードレールのようなものでせき止められていましたが、残りの 3 分の 2 は残っており、しかもそのコンクリの端は浮き上がっていました。

まさにいつ崩れてもおかしくない状態。余震や雨による二次被害は十分ありうると肌で感じました。Ｋさんは「次に裏山が崩れたらひとたまりもない」「自分では直せない。自己負担かかるのか不安」と話されました

奥能登は平野が少なく、「いい土地があればまずは田んぼにする。だから家は山にへばりつくように建っている」という所がたくさんあります。地元の住民にとって二次被害は命に関わる問題です。政府にも早急の対策を求めたいと思います。